

# あすけ通信

足助とつながる情報誌

第14号  
2015年9月発行



## 『思い出の風景 学校編②』 足助小学校

平成27年度は、全校生徒82人。全学年各1学級と、特別支援学級1学級の計7学級でスタートしました。

6月23日に足助小学校の3年生18名と五ヶ丘小学校の3年生13名が都市と山間の教育交流事業として、足助の町並みを散策して交流学习を行いました。国の重要文化財「旧鈴木家住宅」(左写真)の見学や抱き地蔵の参拝など、足助のまちの良さを五ヶ丘小学校の子どもたちに体感してもらうとともに、足助の子どもたちも再確認できました。

にこにこ

## 2戸2戸作戦を利用して

～4年前、2戸2戸作戦で岡崎市から冷田町に移住した宮本さん一家～

### ★2戸2戸作戦宅地分譲事業とは・・・

集落の環境に溶け込む2～5戸程度の小規模な住宅地を整備し、地域住民との交流を通して地域を理解した人、地元が受け入れたい人といった、購入希望者のマッチングを行うことで宅地購入者を決定・分譲する事業です。

😊「自然に近い暮らしがしたい」と住宅を探していた時に、広報とよたの「2戸2戸分譲地見学会」を見つけ、冷田の分譲地を見学しました。そこには、自分たちが思い描いていた風景がありました。交流会に参加する度に地域の方々の温かさを感じ、真夏の草刈、真冬の雪道、蛍の光に感動。道中出会う獣に驚き、これまで経験したことのない自然に触れることで、どんどん冷田にはまっていきました。



宮本さんの家

それからは、子どもたちの進学を控えた私たちにできるだけ早くと定住部長の浦野様のはからいで、分譲の1年前に冷田の空き家に移住が決まりました。その空き家の大家さんである星野様(星野建設)が、現在の住宅を建築してくださいました。また、上棟式を地区の方々の多大なご協力で行ったこともあり、本当に幸せなご縁ばかり。2戸2戸は交流会で時間をかけて地域のこと、近所の方々のことを知ることができ、地域の方々に私たちのことを知ってもらえた上で決められたのでとてもいい制度でした。子どもたちも少人数だからこそ、一生の友達と巡り会え、楽しく学校生活を送っています。2戸2戸に関わってくださった皆様に感謝ばかりです。



宮本さん一家

制度に関するお問い合わせ⇒ 足助支所 地域振興担当 電話 0565-62-0601

今回のあすっこは奥村大地さんと、その父親の岳宏さん。

“初”の「Uターン親子編」です！

息子 大地さん(31才)は名古屋市在住。もうすぐ三児のパパです。

父 岳宏さん(56才)は足助町石橋在住。26年前に家業を継ぐため実家に戻って  
みえました。現在は、スーパー「パレット」の専務取締役として、地元で活躍され  
ています。

今回は、大地さんが足助にUターンするかもしれない・・・とのことで、今の  
心境をお二人に書いていただきました。

# あすっこ紹介

## Uターン親子編

### 息子 大地さんの想い

「子どもにも親にも優しい町」足助を離れて感じる事です。町を歩けば顔見知りばかり。家の鍵を掛けないこともしばしば。小学校まではクラス替えもなく、ずっと同じ顔ぶれの同級生と学校生活を共にします。こうしたことは足助では普通のことですが、名古屋で暮らしてみても、それが当たり前ではないと知りました。職場などで話すと、一様に驚かれます。故郷を離れてみるとそんなことまでが懐かしく、「やっぱり僕は足助が好きなんだ」と、改めて思うのです。また自分が親になってみて、子育てにこれ以上の環境はないだろうと感じます。足助は町が子供たちを見守ってくれているようです。

今のご時世、子供だけで外に遊びに行かせられる所は、そうそうありません。自分はいい環境で育ててもらったと思っています。足助で子育てをされている方々が羨ましいと外から見て思います。

なんて言いながら仕事の都合上、自分がどこで子育てをするのか、  
まだ決められていないのですが…

大地さんと2人のお子さん



### 父 岳宏さんの想い

足助商店街にある時計店の三代目として生まれた私が、10年の修業を終え足助に戻ったのは30才の時でした。長男の幼稚園入園に合わせての帰郷です。長く他所で暮らした私を、足助は温かく迎え入れてくれました。特に同級生はありがたかったです。ほどなく入会した消防団やお祭り、そして商工会青年部は、それまで同年代の横の繋がりが主だった人間関係に、世代を超えた縦の繋がりを加えてくれました。これでようやく、本当に足助の仲間に入れてもらえたと実感したものです。

10年ぶりに暮らす足助は、目に新しいものばかりでした。見慣れたはずの町並みも山や川も、以前とは違う表情を見せてくれているようでした。私の年齢がそう思わせたのでしょうか。それは心躍るほど魅力的で、この町に生まれ育ったことを誇りに思い、ここに暮らせる幸せを感じました。年齢を重ね、他所で暮らしたことで、ようやく足助の良さが分かりかけたのです。そして足助の最大の魅力は、ここに暮らす人たちの人柄だと感じました。山や川もそうですが、ふるさとして本当は“人”なんだと知りました。



写真左から、長男：大地さん、父：岳宏さん、次男：史門さん

私は息子たちには、好きな土地で自由に暮らしてもらいたいと思っています。それでも彼らが足助を選んでくれたなら、そんなうれしいことはありません。私が感じた喜びと安心感を、彼らも味わうことでしょう。その日を夢見て、筆を置きます。

## 編集委員募集!!

いつもあすけ通信を読んでいただき、ありがとうございます。あすけ通信も今回で14号の発行となりました。よりパワーアップしていきたいと思っております！

「あすけ通信が好き」、「こんな記事を書きたい」など、興味のある方はお気軽にご連絡ください(^^)／

発行 あすけ通信編集委員会事務局  
豊田市役所 足助支所  
(豊田市足助町宮ノ後26-2)  
電話 0565-62-0601  
Email asuketsushin@city.toyota.aichi.jp